

-----  
[ 成果情報名 ] 夏出し用小ネギ品種「夏元気」

[ 要約 ] 小ネギ品種「夏元気」は、夏出し栽培において、葉色が濃く、収量性に優れ、葉先枯れの発生が少ない。

[ キーワード ] 小ネギ、夏出し

[ 担当部署 ] 野菜育種部 野菜育種チーム

[ 連絡先 ] 092-922-4930

[ 対象作目 ] 野菜

[ 専門項目 ] 育種

[ 成果分類 ] 新技術  
-----

[ 背景・ねらい ]

本県は全国1位の小ネギ生産県である。小ネギは周年の中で夏期における需要が多く、販売単価も高いが、夏期の生産は不安定で出荷量が少ない。この要因としては、1本当たりの重量が軽く収量性が低いこと、葉先枯れ等による規格外品の発生が多いことなどが挙げられる。

そこで、夏期の生産安定を図るために、小ネギの品質として求められる葉色が濃いことに加え、夏期でも収量性が高く、葉先枯れが少ない品種を育成する。

[ 成果の内容・特徴 ]

「夏元気」は、平成16～18年にかけて交配したF<sub>1</sub>系統の中から、夏期における葉色の濃さや生育適性等で選抜した。その育成内容および特徴は次のとおりである。

1. 「夏元気」は、伸長性が良い雄性不稔系統「CMS-H07」を種子親とし、千住合柄系固定種から育成した葉色が濃い固定系統「福岡ねぎ11号」を花粉親とするF<sub>1</sub>品種である(図1)。
2. 夏出し栽培における「夏元気」の葉先枯れの発生は少なく、収量は慣行品種「FDH」より多く、「夏彦」と同程度で収量性に優れ、歩留り率は両品種より高い。葉色は両品種より濃い(表1、図2)。

[ 成果の活用面・留意点 ]

1. 品種登録出願公表(平成22年6月14日、第24556号)。
2. 本県の育成品種として、産地への普及を図る。

[ 具体的データ ]

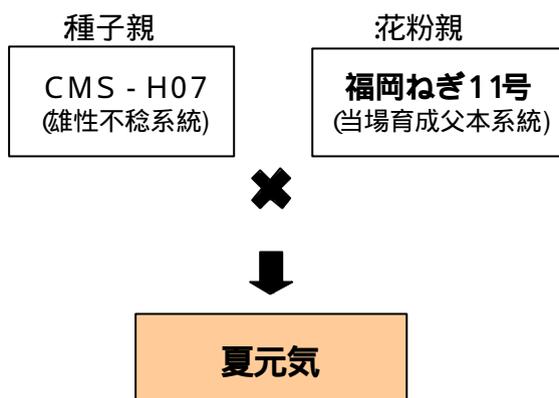


図1 交配組み合わせ



図2 調製後の外観

左：「夏元気」、右：「FDH」

表1 夏出し栽培における生育特性

供試系統名	播種期	生育日数	草丈 (cm)	収量 (kg/m <sup>2</sup> )	歩留り率 (%)	葉身径 (mm)	葉肉厚さ (mm)	葉色		葉先枯れ発生率 (%)	
								緑色	ワックス	自然	強制
夏元気	5月下旬	66	46	1.79	69	5.3	0.45	7.9	3.9	0.5	10.7
FDH		68	45	1.55	65	4.8	0.46	7.0	4.2	2.0	19.6
夏彦		66	46	1.83	64	5.3	0.47	6.3	4.0	7.2	31.4
夏元気	7月中旬	66	48	1.74	71	5.8	0.40	7.8	4.7	1.1	-
FDH		66	48	1.55	67	5.2	0.40	6.9	4.3	0.4	-
夏彦		66	48	1.69	67	5.9	0.41	6.8	4.0	1.0	-

注) 1. 播種日 : 平成19年5月25日、7月10日。20年5月26日、7月16日。数値は播種期毎の2か年平均値。

2. 播種密度 : 条間15cm、株間1cm

3. 収量 : 葉数1.1枚~2.0枚に調製後の重量。

4. 歩留り率 : 調製後収量 / 調製前重量 × 100

5. 葉色 : 新生第2葉の葉色を日本植物標準色票に照合し、緑色を10(濃)~1(淡)の10段階、ワックスを5(多)~1(少)の5段階に数値化した値。

6. 葉先枯れ発生率 自然 : 収穫時の調製品における発生株率。

強制 : 多発条件下での発生株率。収穫残株に対し無かん水、ハウス密閉処理を1週間継続した後の発生株率。平成20年作のみで実施。

- : 未実施

[ その他 ]

研究課題名 : 新規需要創出のためのネギ新品種の育成

予算区分 : 県特(おいしく、健康によい新品種開発事業)

研究期間 : 平成20年度(平成16~20年)

研究担当者 : 末吉孝行、下村克己、古賀 武